

# 令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①幅広い進路希望に対応できるよう教育課程の継続的見直しを行う。</p> <p>②進路実現の基盤として、自らの学習を管理して主体的・対話的で深い学びを実践する力を育成する。</p> <p>③探究的な学びを通じて課題発見力・解決力の向上、自己肯定感の高揚、社会を生き抜く力の育成伸長を図る。</p>	<p>①履修指導を強化し、将来的な進路指導と連携させ、多様な進路の実現をめざす。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを育む授業づくりを推進することとともに、授業の導入部をより改善し、自ら学習に取組めるようにする。</p> <p>③「生徒による授業評価」の内容を工夫することにより、探究的な学びを通して自己肯定感の高揚や課題の解決を図る。</p>	<p>①将来を主体的に選択させるための適切な履修指導に改善する。情報共有を組織的に行い、履修指導の在り方について全職員の共通理解を図る。</p> <p>②授業の導入部を授業改善の課題として取上げ、職員全体で授業力の向上を図り、生徒が自ら取組めるような授業改善を図り進路の実現に近づける。</p> <p>③授業内での達成感を感じられるような授業づくりを行うよう「授業評価」を改善する。</p>	<p>①幅広い選択科目の中で進路の実現に向けた履修指導を実施することができたか。</p> <p>履修指導を通じて、多角的に生徒の主体的な進路選択を保障することができたか。</p> <p>②進路の実現に向け、生徒一人ひとりが「自己調整学習」を理解し、進路の実現に向け、主体的に学習に取組む姿勢ができたか。</p> <p>③探究的な学習を通して、自己肯定感の高揚が実現できているか「生徒による授業評価」により認識させることができたか。</p>
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①一貫した生徒指導に加え、すべての教職員が高い支援意識を持ち、多様な特性を理解し確かな支援につなげる体制を構築する。</p> <p>②学校行事、部活動等への主体的な取組を促し、豊かで活力ある学校生活を創出する。</p> <p>③グローバルな視野と高い人権意識を身に付け、多文化共生社会の実現に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>①すべての教員が一貫した生徒指導を行うことができるよう体制を構築する。</p> <p>SC、SSWと連携した個別の支援をより積極的に行えるよう、校内体制を整える。</p> <p>②生徒が主体的に部活動、学校行事に取組めるようにする。また、他者と協力して諸活動を創造できるよう支援する。</p> <p>③生徒同士が互いの文化を理解し思考の多様性に気付くことができる教育の場面をつくる。</p>	<p>①生徒指導に関する様々な規則の周知の方法を工夫する。</p> <p>年度初めに教育相談体制について周知する。全職員が生徒支援の意識を持って生徒の変化に対する感度を高め、情報を共有し、それを支援につなげる。</p> <p>②長期的視点に立ち 計画的に生徒の主体的活動を支援する。活動の目標や目的を明確にし、生徒同士、生徒と教員間でもコミュニケーションを円滑にする。</p> <p>③多文化共生の「知る・つながる・創る」という理念を具体化する。</p>	<p>①一貫した生徒指導ができたか。</p> <p>生徒に対して適切な支援ができたか。</p> <p>②学校行事、部活動等の機会に、生徒主体の活動ができたか。他者と協力して諸活動を創造できるよう支援することができたか。</p> <p>③LHR等を活用し、各年次にあわせた多文化共生推進教育プログラムを開拓することができたか。</p>
3	進路指導・支援	①「キャリアⅠⅡⅢ」での一貫したキャリア教育を推進し、校内外での多様な学び	①多様な学びを生かした指導に学校全体で取組み、生徒が自分の適正に合った進	①キャリアパスポートや講演会などで自分自身の振り返りなどを充実させるとともに、	①自分自身の視野を広げたり、振り返ったり、将来の進路や生き方について考えたりする機会を多く設けることができたか。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
		<p>と体験を通じて自分の在り方・生き方に対する自覚を深めさせる。</p> <p>②「課題研究」での探究活動を充実させ、計画性を持って課題に取り組み、自らの興味・関心を追究することで進路実現・自己実現を目指す。</p>	<p>路先や受験方法を選択する力をつけるための指導体制を充実させる。</p> <p>②課題研究のテーマ設定を大切にし、調べ学習に留まらない充実した課題研究を行う。</p>	<p>外部機関や上級学校とも連携を図り、積極的に活用する。</p> <p>②探究の手法を理解し、テーマに対する仮説や根拠を論理的に説明できる力を身に付ける指導を実践する。</p>	<p>できたか。</p> <p>②「総合的な探究の時間」において、他者との意見交換や対話の場を設けるなど、テーマや探究内容を深化させるアプローチができたか。</p>
4	地域等との協働	<p>①インターンシップ等への参加を促し、地域社会が持つ教育力を積極活用してキャリア形成意識の向上を図る。</p> <p>②地域との交流を推進し、地域の課題に目を向け、その解決を図ろうとすることで、豊かな人間性や社会性の涵養を図る。</p>	<p>①キャリア形成意識の向上のため、地域社会が持つ教育力を積極的に活用する。</p> <p>②地域貢献デーを通じて、生徒が地域社会に対して積極的に貢献する姿勢を育む。</p>	<p>①インターンシップをはじめ、多様な活動があることを積極的にアナウンスし、学校外の活動への参加を促す。</p> <p>②地域の美化に貢献するとともに、清掃活動を通じて、生徒が地域社会とのつながりを実感し、社会貢献の意識を高める。</p>	<p>①生徒が校外の連携講座など、自分自身のキャリアを考え、活用できたか。</p> <p>②生徒が清掃活動にどのように取組んでいるか、積極的に参加しているか、協力的な態度を示しているか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①業務の抜本的見直し、ICT化等の業務改善に組織的に取組み、生徒と向き合う時間の拡充を図る。</p> <p>②ハラスメントのない職場づくりを実現し、職場の心理的安全性を高め、教職員のワークライフバランスを推進する。</p>	<p>①ICT の研修を通じて業務を改善し、生徒と向き合う時間を増やして教育の質を向上させる。</p> <p>②不祥事防止研修会や平素のコミュニケーションにより、不祥事の発生をなくすとともに、早期発見、迅速な対応の体制を構築する。</p>	<p>①教職員向けに ICT 研修を実施し、業務効率化のためのスキルを習得させる。また、グループ業務や授業準備に ICT ツールを活用し、時間の効率化を図る。</p> <p>②不祥事防止研修の講師を職員が行うことにより、「自分ごと」の意識を持った研修とする。職員相互の声掛けにより、早期報告・連絡・相談の体制をつくる。</p>	<p>①教職員がどの程度 ICT ツールを使用しているか。具体的には、授業準備や授業中、グループ業務、個別指導などに ICT ツールが使用されているか。</p> <p>②不祥事を未然に防ぐことができたか。適正に対応し、再発防止策を講じることができたか。</p>